

1. 略歴

- 1992年 3月 京都大学文学部文学科卒業（文学士）
1992年 4月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻入学
1994年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程梵語学梵文学専攻修了（文学修士）
1994年 4月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程梵語学梵文学専攻進学
2000年 3月 京都大学大学院文学研究科梵語学梵文学専攻博士後期課程中途退学
1996年 9月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程入学
2000年 12月 ペンシルバニア大学文理大学院言語学科 Ph.D.課程卒業（Ph.D）
2000年 4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 COE 非常勤研究員（2001年3月まで）
2001年 4月 白鷗大学経営学部専任講師（2005年3月まで）
2005年 4月 白鷗大学経営学部助教授（2007年3月まで）
2007年 4月 白鷗大学教育学部准教授（2010年3月まで）
2010年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

歴史言語学、音韻論、インド・アーリア語、ドラヴィダ語、オーストロアジア（ムンダ）語

b 研究課題

インド・アーリア語、とくにサンスクリット文献学と、ドラヴィダ語族、オーストロアジア語族少数民族言語のフィールドワーク

c 概要と自己評価

インド・アーリア語についてはサンスクリットを中心として他の印欧語族言語と比較し、音韻上の特性を記述した著書を出版し、現在は伝統文法の研究を行っている。ドラヴィダ語族では、北部の2つの少数民族言語について、現地調査を重ねて文法記述を完成させた。オーストロアジア語族では、未記述の言語エルンガ・コルワ語の調査を進めている。

d 主要業績

(1) 著書

共編著、Bablu Tirkey、『Khatrkā Ropnas gahi Tuṅgul』、Bendora: Manas Publications Bendora、2017.3

共編著、Bablu Tirkey、『Savā Rupiyā Khatrī』、Bendora: Manas Publications Bendora、2017.3

共著、Masato Kobayashi and Bablu Tirkey、『The Kurux Language: Grammar, Texts and Lexicon』、Leiden: Brill、2017.9

(2) 論文

Masato Kobayashi、The adnominal locative in Indo-Aryan、Tavet Tat Satyam: Studies in Honor of Jared S. Klein on the Occasion of His Seventieth Birthday、Ann Arbor: Beech Stave、168-178、2016

Masato Kobayashi、Patanjali on borderline cases of compound classification、Vyakaranapariprccha: Proceedings of the Vyakarana Section of the 16th World Sanskrit Conference、Delhi: DK Publishers、175-194、2016

(3) 学会発表

国際、Masato Kobayashi、「The past suffixes of Hill Korwa」、International Seminar on Munda Linguistics、Deccan College、Pune、2017.3.16

国内、小林正人、「クルフ語の自発使役構文」、日本語学会 155 回大会、立命館大学、2017.11.25

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本語学会、常任委員、2012.4～2018.3、編集委員、2018.4～

海外、Dravidian Linguistic Association、Advisory Board、2017～

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

教育機関、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、運営委員会委員、2013～、研修専門委員会委員、2016～